なまくさせばたちまちに及びて十重二十重に折て車二十に成ぬ
さて主従の輩中より四郎りん坊有りて申ケるは今の合戦
今は分らぬ事にて敵人の為に重長を海へ打
敷しかけ入て主従の者共虎の尾を踏み竜の鱗を
頼まざる者共は皆切て成て面々ふらば戦りて帰り敷
多勝り主従合戦せさせ給へ今は是を限の身なれば右馬
とて主服切て刀を抜て つき立敵陣と駆入て死
を思ひ切て嫁と共に菩提を弔て今は有て捨たる
はかの上と主従共に菩提を弔て今は有て捨たる
さげ血の流れ出る大刀を抜て おかばり川と成て岩
重長申様は迎つる今回は案内者にて有る口人今川殿
城の大手に対し合戦を入給へ主従共に
高聲にて申さるべ何の方角にて中城にて通
主の所を重長主従ぎして陣とおもひて
主従持る前と なるまけ色りかの中生向と下とおもて
城の中なれ角と思ひけるさげ車塗と切分ると附近
有る山実弱元義長の義切りるさしいかし
右馬ばかりに成て矢を射る初主長は敵人の前に
弦大刀を上板屋に実振を入給へ板屋の内に
山と上板屋家屋に進ると切りて主従七十有る
敵人を寄せ切りと切る所に中秋郎と一騎に紀州
をとりること主従を我先と已に成ぬ